



READY for 2050

ブリヂストンが考える持続可能な社会

Interview Vol.2 業界で初めて[※]「AAA-a」を獲得した低燃費タイヤグレードの最高峰「ECOPIA EP001S」

ブリヂストンは昨年、業界で初めて[※]最高グレード「AAA-a」を獲得した低燃費タイヤ「ECOPIA EP001S」を発売した。環境ジャーナリストの枝廣淳子氏をナビゲーターに迎え、開発とマーケティングの両面から、ブリヂストンの環境戦略の中で低燃費タイヤが果たす役割と、普及に向けた取り組みについて話を聞いた。

よく転がるが、よく止まる

横田 当社では、持続可能な社会の実現を目指し、「自然と共生する」「資源を大切に使う」「CO₂を減らす」という3つの環境活動の方向性と、それについて2050年を見据えた環境長期目標を掲げています。この中で「CO₂を減らす」に関しては、2020年に向けた中期目標^{※1}として、モノづくりで売上高当たり35%のCO₂排出量を削減すること、タイヤの転がり抵抗を25%低減することで、モノづくりで排出される以上のCO₂削減に貢献すること、の2つを掲げています。今回、後者の目標に大きく貢献する低燃費タイヤ「ECOPIA EP001S」を開発しました。これは業界で初めてラベリング制度（右ページ上部コラム参照）の最高グレード「AAA-a」を獲得した製品です。^{※1} 基準年=2005年

宮下 2010年よりタイヤ業界の自主基準として、ラベリング制度が導入され、各社の低燃費タイヤの性能を横並びで比較できるようになりました。お客様は低燃費タイヤの価値を理解しやすく、販売店様は説明

がしやすくなりました。例えば、ブリヂストンではラベリング制度と燃費の関係を「グレードが1つ上がるごとに燃費が約1%改善される」とお伝えしています。これによって普及が一段と加速しました。

枝廣 エコプロダクツ大賞^{※2}でも表彰を受けるなど大きな話題となりましたよね。では、低燃費タイヤが環境戦略においてどのような役割を果たすのか、教えてください。

^{※2} 第9回エコプロダクツ大賞 エコプロダクツ部門 エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）

横田 タイヤを製品ライフサイクル全体で見た場合、CO₂排出量が最も多いのは自動車の排気ガスとして排出される製品使用時で、全体の実に約9割を占めます。この使用時のCO₂排出の削減に大きな役割を果たすのが、より少ないエネルギーでよく転がる、すなわち「転がり抵抗」の小さい低燃費タイヤです。自転車のタイヤに空気を入れた後はペダルが軽くなりますよね、これが「転がり抵抗」の違いと言えば分かりやすいでしょう。

枝廣 なるほど。では低燃費タイヤを開発する上での課題には、どのようなものがあるのでしょうか。

横田 自動車用タイヤでは、この転がり抵抗を低減すると、濡れた路面でのグリップ性能を発揮しにくくなってしまうという特性があり、その両立が大きな課題となっていました。当社では、単に低燃費性能のみを追求するだけでなく、雨の日でも安心して走れる安全性能や、長くお使いいただけるロングライフ性能との両立をめざした、ECOPIAブランドの最高峰製品の開発に着手、その結果誕生したのが「ECOPIA EP001S」なのです。

タイヤを開発する際、通常は溝のデザインやゴム素材、内部構造など、各担当部署が開発を進めた成果を持ち寄り、統合することで製品を完成させていきますが、今回は開発当初から各部門のメンバーが一堂に会する形で、全体最適を強く意識したプロジェクト体制を組み、開発を推進しました。約半年強という短い期間の中、モータースポーツで培った技術や、独自の素材技術を活用しブレイクスルーを実現しました。



JATMA(一般社団法人日本自動車タイヤ協会)が策定。タイヤの転がり抵抗性能とウェットグリップ性能の等級分けを行い、ラベル表示を行う。転がり抵抗性能が「A」以上、ウェットグリップ性能が「d」以上のものが「低燃費タイヤ」と呼ばれる。

販売の現場からも、環境のブリヂストンを発信

枝廣 ブリヂストンではお客様に対して低燃費タイヤを選択することの意義をどのように伝えているのでしょうか。

宮下 お客様の大半が、販売店員様のアドバイスをもとにタイヤを選んでいます。

そのため、ブリヂストンではセミナーや勉強会を通して、販売店様に低燃費タイヤに対する理解を深めてもらうことから始めています。「ECOPIAを多くのお客様に使っていただくことが環境負荷の低減につながる」というメッセージを伝える地道な努力が実り、現在ではお客様にも浸透してきています。2012年の調査で、ECOPIAを中心とするブリヂストンの低燃費タイヤは「低燃費タイヤ装着率No.1」^{※3}を獲得。つまり、日本で一番多くのお客様に選ばれている低燃費タイヤとなっています。

「ECOPIAに換えて燃費の良さを実感した」「運転の仕方に配慮するようになった」というお客様の声も着実に増えています。

^{※3} 2012年8月31日～9月4日にかけて、一般乗用車ドライバーを性別に抽出し、地域・車タイプの構成比を現況に合わせインターネット調査をブリヂストンタイヤジャパン株が第三者の調査会社に委託し無作為抽出法にて実施。サンプル数：市販用夏用タイヤ購入経験者の内低燃費タイヤ購入者2,074人。今回の調査結果でブリヂストン低燃費タイヤの装着率は40.2%。

枝廣 販売される方、一般の方にも知識が浸透すると、今後、ますます低燃費タイヤが選ばれるようになります。環境負荷のより低い製品が増え、それを多くの人が当たり前のこととして受け入れ、使っていく世の中に近づいていくということですね。

世界最大のタイヤメーカーとしての責任

宮下 当社には、グループ全体で150を超える国々で事業を展開する世界最大のタイヤ会社・ゴム会社としての責任があります。ブリヂストンが低燃費タイヤの技術革新と、そして普及に努めることで、タイヤ業界全体のCO₂排出量削減に大きく寄与することができます。今後も2020年の環境中期目標、さらにその先の2050年を見据えた環境長期目標の実現に向け、グループを挙げて低燃費タイヤの普及に取り組んでいきます。

枝廣 技術開発や、製品の普及が進めば進むほど、環境負荷の低減につながっていく。やりがいのあるお仕事ですね。グローバルリーダーとして、環境負荷低減に向けたブリヂストンの取り組みに大いに期待しています。▲

「ECOPIA EP001S」
常に環境性能に厳しく取り組んできたブリヂストンだから実現できた、低燃費タイヤグレード「AAA-a」。低燃費性能も安全性能も最高ランクを実現した。



インタビューを終えて | 枝廣淳子氏

自動車の環境負荷と、その低減に向けた努力についてはよく知られています。今回のインタビューではタイヤが自動車のパフォーマンス、そして地球環境に対しても、大きな影響を持ち得るということがよくご理解いただけたと思います。業界を上げての取り組みにより、多くの方がタイヤ選びの際にも、燃費や環境のことを強く意識するようになりましたと言います。企業の努力から、消費者の環境への意識を変えているということです。タイヤから変わらライフスタイルという、大変興味深いお話をでした。

ブリヂストン 環境への取り組み
取り組みの考え方と内容
150カ国、14万人を超える従業員が環境活動を実践するためのよりどころである「環境宣言」「環境長期目標」、また、その実現に向けた取り組みなどを紹介しています。
<http://www.bridgestone.co.jp/csr/eco/>

ブリヂストン 環境スペシャルサイト
「READY for 2050」
CEOが自ら語る動画、従業員へのインタビューで取り組みを解説し、2050年に実現を目指す持続可能な社会のあり方をわかりやすく紹介。
<http://www.bridgestone.co.jp/sc/readyfor2050/>

株式会社ブリヂストン
【ブリヂストンお客様相談室】 ☎ 0120-39-2936
受付時間:月～金(祝日・当社指定休日は除く)9:00～17:00
<http://www.bridgestone.co.jp/>
※本稿に記載されている所属と肩書きは、2013年3月時点のものです。